終運報丙第七〇號　八六

發　終運五部
受　[redacted]事務官
時間　一二三〇
擔任　[redacted]　事務官

昭和二十一年五月十四日（火）
渉外課

GHQとの連絡

五月十三日

一、沖縄方面送還の件
沖縄本島以外の島嶼に對する送還は直ちに再開せらるべく又本島に對しては差當り一萬人の送還許可せらるる　送出港としては本島への送還には名古屋（大阪附近に二萬余居住し居るに付それを送出すれば可なるべし）、他のものに付ては呉及鹿兒島を使用することとすべし、朝鮮

朝鮮人送還の二の舞を踏まざる樣送出に注意せられたし

猶「ハウエル」大佐は七月一日になれば沖縄の軍政が陸軍に移管せらるるに付其の後は本島に對し全面的送還を行ひ得べしと述べたり

二、當方より沖縄人は歸還を熱望し居るに付送出に關しては心配なく順調に行ひ得る自信ありと説明し置きたり

三、讀賣新聞に掲載せられたる千島方面引揚開始の報道に付訊ねたるに「ハ」大佐はSCAPに於ては何等承知せずと答へたり

四、滿洲よりの引揚に關し米華間に協定成立したりとの新聞報に付訊ねたるに「ハ」大佐は右は承知せずざるも今朝到着せる在華米軍司令部よりの電報によれば

(1)葫蘆島「ラパトリエーション、ティム」は十萬の日本人を摑み居り他の者を順次集結中にして送出の爲毎日六〇〇〇人の配船を要求す

(2)右以外に大連を「オープン」する計畫あり、毎日一萬人の配船を要求すとのことなり、右の内(1)は確定せるも(2)は未だ計畫に過ぎず本件責君のみ「インフォ

ーション」として御知らせするものなれば付極秘と願ひ度しと述べたり

稍歸還輸送に付ては中國、就中滿洲が最高の優先權を與へられ居り滿洲、中國よりの引揚活潑化するに伴ひ南方への配船の一部が引抜かるることとなる趣

五、上海よりの引揚は現在は奥地よりの日本人集結が毎日六〇〇〇人の計畫に對し實績三〇〇〇（註、總參電第三七八號には一日平均七〇〇〇人なる爲稍停滯し居れるが中國側は六月一日以降毎日一〇、〇〇〇人を集結し得る計畫にて一萬人分の配船を要求し來れる

六、受入港滯留人數

	七日	八日	九日	十日	十一日
博多	〇				
鹿兒島	一三		一四九三		
佐世保	六五〇三		五七六三	五七八〇	
呉	七四九	三四一八	四三五六	四六六七	
舞鶴	〇	〇			
仙崎	一三三四		一三七四		二一二二
門司	〇		〇	〇	二五〇
徳山					
名古屋	七〇五一	五七一六	七〇四一		三四八三

移